

教員推薦図書 2021年1月

推薦教員	子ども学科 教授 長野 麻子 先生	<p>【推薦コメント】</p> <p>2019年12月、アフガニスタンで医師として長年活動していた中村哲さんが、武装集団に銃撃され、殺害されたニュースが駆け巡ったことを覚えているだろうか？</p> <p>中村医師は福岡市にあるNGO『ペシャワール会』の現地代表であり、同会が運営するピース・ジャパン・メディカル・サービスの総院長として、1984年よりパキスタンやアフガニスタンで難民や貧困層の医療支援に従事してきた。しかし、2000年より厳しい旱魃（かんばつ）の影響で、飢餓や病気に苦しむ人々が増えたため、中村医師は衛生的な飲料水を確保しようと医療活動と並行し、灌漑用井戸事業を開始した。それはやがて大規模な用水路事業へと発展し、現在、アフガニスタンには中村医師と現地の人々が建設した全長24キロのマルワリード用水路が人々の生活を支えているという。資金は一般の方々のペシャワール会への寄付金だけである。しかもアフガニスタンといえば過去にはソ連侵攻、911の同時多発テロの際にはアメリカ軍の空爆を受け、現在も紛争地帯として危険な場所である。そのような想像を絶する異国の地で、これだけの偉業を成し遂げた中村医師には尊敬の念以外になく、無残に殺害されたことが悔やまれてならない。</p> <p>中村医師をご存知ない方々に中村医師が残した著書をお勧めしたい。本書は中村医師が旱魃に苦しむアフガニスタンで白衣を脱ぎ、最初の利水事業としての井戸掘りに奔走する様子をまとめた書物である。911の緊張の中でありながら、中村医師特有の柔らかくユーモアに満ちた言葉が印象的で、様々なトラブルやハプニングを乗り越える姿が頼もしい。またアフガニスタンが置かれた状況や日本を含めた国際関係についてもわかりやすく述べられている。本書で中村医師に感銘を受けたなら、『医者用水路を拓く：アフガンの大地から世界の虚構に挑む』（中村哲著、石風社、2007年）もさらにお勧めする。この他にも多数の中村医師の著書が図書館に所蔵されているので、ぜひ手に取ってほしい。</p>
書名	医者井戸を掘る ～アフガン旱魃との闘い～	
著者名	中村哲 著	
出版社	石風社	
請求記号	498.02271/Nak	
資料ID	901117998	